

## 第 333 回開放型病床生涯教育研修会を開催！

令和5年11月2日に第333回開放型病床生涯教育研修会を開催しました。

今回はオクラホマ大学医学部細胞生物学科小原朋子先生を講師に迎え「高齢化社会の健康寿命の延伸を目指すために」をテーマにご講演いただきました。

今回も会場とZoomとのハイブリッド形式で開催し、院内外から24名の参加をいただきました。

講師からは、疾患動物モデルにメダカを活用した事例が紹介され、病態発症機構の解明と創薬研究が注目されていると説明をいただきました。



## びょういんの参観日・新放射線治療センター開設式を開催！

### ◆びょういんの参観日◆

令和5年11月11日(土)に様々な体験や見学などを通して医療の仕事を知っていただく「びょういんの参観日」を昨年度に引き続き開催しました。当日は、延べ350人ほどの市民の皆さまにご来場いただきました。普段は入れない手術室や放射線技術科の見学、病院での仕事を知ることができる調剤や検査などの様々な体験、かかりつけ医制度など地域の医療機関を知っていただく展示などを企画し、多くの方楽しんでいただくことができました。

これからも、もっと市民の皆さまに愛される病院を目指してまいります。



### ◆新放射線治療センター◆

令和5年11月11日(土)に、放射線治療センターのリニューアルに伴い開設式を開催しました。

開設式は中川勇長浜市議会議員、高折院長、小坂放射線科(治療部門)責任部長によるテープカットで始まり、当院初のクラウドファンディングに高額のご協力をいただいた方々に、院長から感謝状が送られました。

その後の内覧会には60名の方にお越しいただき、新しくなった施設や機能、特徴をお伝えすることができました。

これからも、新しい放射線治療センターで、患者様により高度な医療を提供してまいります。



## お知らせ

### ◆救急受診および救急車の受入れの一時停止について

当院、ネットワーク更改等工事に伴い病院情報システム等の一時停止を行うことから、診療制限を行います。つきましては、以下の期間の救急受診、救急車の受入れを一時停止いたします。大変ご迷惑をおかけいたしますがご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

日時 令和5年12月22日(金)午後6時から12月23日(土)午前6時まで

※ 工事の進捗により終了時間が多少前後することがあります。

## 市立長浜病院 地域医療連携だより 令和5年12月1日号 No.225

理念  
地域住民の健康を守るため、  
「人中心の医療」を発展させ、  
地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院  
患者総合支援センター 地域医療連携室  
〒526-8580 長浜市大成町 313 番地  
TEL: 0749-65-2720  
FAX: 0749-65-2730  
<https://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院  
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。12月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## 湖北唯一の循環器疾患センターを目指して

### 副院長・循環器内科責任部長 高島 弘行



皆様、いかがお過ごしでしょうか。現在のスタッフが当院の循環器診療を担当するようになって10年が過ぎ、この湖北地域で最高水準の循環器医療を提供できる様にと整備を重ねてきました。

急性心筋梗塞や狭心症、閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性血管疾患については数年前から滋賀県内でもトップの症例数となっています。その内容も80~90歳台と超高齢の患者様が多く、難治性石灰化病変が多数を占めていますが、他施設に先駆けて導入されたエキシマレーザー、ロータプレーター、ダイヤモンドバックなどの最先端デバイスを用いて、全国水準のカテーテル治療が出来る体制を構築しました。

続いて2019年12月から不整脈についてのアブレーション治療を開始し、こちらも年々雪だるま式に症例数は増加して、昨年度は160例近くまで伸びています。

さらに2021年から重症心不全に対する両室ペースメーカーによる心臓再同期療法(CRT)、難治性心室細動に対する植え込み型除細動器治療(ICD)、またICD植え込み前の待機時に装着する着用型自動除細動器(WCD 除細動機能のついたベスト)治療といった最新デバイス治療を開始しました。

これまで湖北ではこれらの高度循環器診療が可能な認定施設がなく、はるばる大学病院まで移送しなければならなかったため、患者様やそのご家族には随分ご迷惑をおかけしていました。今後は当院でこれらの難治性不整脈や心不全に対するデバイス治療を行い、手術後は当院のICD・CRT専門外来で管理させていただきます。

また、数ある弁膜症疾患の中でも、近年めっきり増加傾向にある大動脈弁狭窄症についても以前は外科的な開心術による人工弁置換術が主流でしたが、超高齢者やフレイル患者など手術条件の悪い患者様には施行し難い点が問題でした。このような症例では、最近では切らずにカテーテルで人工弁置換を行うTAVI(経皮的動脈弁人工弁置換術)が増加してきました。現在、滋賀県内でこのTAVIの施設認定を取得しているのは滋賀医大のみですが、当科でもこの近い将来のTAVI導入に注力すると同時に、現在ではその準備期間としてTAVIへの橋渡しとなるBAV(経皮的動脈弁拡張術)を積極的に行っています。

大学病院から遠く離れた地理的要因を抱える湖北では、当院のモットーでもある地域完結型医療が実践できなければなりません。湖北唯一の心臓血管外科を併設し、都心部の大病院と比肩し得るような循環器疾患センターを目指して邁進していく所存です。お困りの際は是非とも当科までお気軽にご相談ください。

## 当院心臓血管外科の現状と循環器内科との連携について

心臓血管外科責任部長兼医療安全管理監 植山 浩二



湖北地区ならびに滋賀県下の医療機関の皆様、平素当院の診療に多大なご支援を賜り深く感謝申し上げます。当院心臓血管外科は京都大学附属病院心臓血管外科の関連施設であり、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設の認定を受けています。湖北地区唯一の心臓血管外科であり地元根付いた、当院の理念でもある「地域完結型の医療」を目指しています。

当科は心臓血管外科専門医・修練指導医 3 名を擁しており、外科チーム一丸となり種々の治療を提供しております。取り扱う疾患は心臓（狭心症や心臓弁膜症など）、大動脈（真性大動脈瘤や大動脈解離）、末梢血管（閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤など）と多岐に渡ります。加えて早急な治療が一命を取り留めるに必要な大動脈瘤破裂や急性大動脈解離に対し、24 時間対応可能とするためにホットライン（緊急用携帯電話）を常に携え 24 時間緊急体制で備えています。また、令和 3 年 9 月の「地域医療連携だより」でご報告しました、右肋骨の間を 10cm 程度切開した「小さな傷口」から内視鏡で心臓内部を観察しながら心臓弁膜症の手術を行う「低侵襲心臓手術：通称ミックス」も順調に症例数を重ねており、患者さん方には「傷痕の痛みが少なく、社会復帰が早い」と喜ばれています。手術後に著しく ADL が低下したフレイルな方や超高齢者には、安心して自宅へ戻れるように手術後「回復期リハビリ病棟」で濃厚なリハビリテーションを実施しております。リハビリ効果を計る指標の一つである実績指数も厚生労働省が定める基準値を大きく上回っており、患者さんやご家族が今まで以上に安心して自宅へ戻って頂けるようになり大変喜ばれております。

さて、診療のパートナーである循環器内科とは良好な関係にあり、循環器疾患に対する治療を集学的に行っております。当院循環器内科は、虚血性心疾患に対するカテーテル治療に優れており沢山の症例を重ねていますが、極めてハイリスクな症例にも果敢に挑んでいます。希に緊急に外科治療を要する事態となることがありますが、その時は我々外科医のバックアップにより大きな合併症を防いでおります。また、外科治療を施したものの、期待された結果が得られない場合は、循環器内科の助けを得ることで良好な状態となることも少なくありません。今後も相互補完の形で内科と外科が手を携え治療に臨んでいく覚悟です。

## 専門分野の認定看護師から見た循環器病棟について

3 階南病棟 慢性心不全看護認定看護師 杉村 隆幸



私が所属する 3 階南病棟は心臓血管外科と循環器内科の混合病棟です。当病棟は 44 床のベッドで管理しておりますが、心臓血管外科と循環器内科が担当する患者様は非常に多く、集中治療室をはじめ循環器関連病棟との連携は不可欠です。

心臓血管外科と循環器内科が対象とする患者様の病期は幅広く、集中治療管理から繋がる急性期ケアをはじめ慢性期における生活・疾病管理に対し支援することが求められます。また、循環器病の終末像と言われる心不全においては、運動、栄養、薬剤、検査、退院・在宅支援に関わる多職種と連携し看護を実践することが求められます。

このように当病棟は幅広い病期における支援や多職種との連携が求められるとともに、入退院は激しく日々多忙です。しかし、多忙な中でも看護師をはじめ医師、その他の職種も患者様を第一とし、互いの情報を共有できるよう日々カンファレンスを開催しております。また、日々進歩し新たに導入される心臓血管外科・循環器内科治療に関しては医師や多職種の協力のもと、学習会が開催され、学びを深め看護に活かすことを心がけています。

今後、心臓血管外科と循環器内科での治療を終えた患者様、将来治療の対象となり得る患者様の支援については地域との連携が重要だと考えます。当病棟での取り組みを地域の方々へと繋ぎ実践できるよう慢性心不全看護認定看護師としての役割を果たして参ります。心臓関連でお困りなことがございましたら是非ご相談ください。

## 救急センターから ICU へのつながりのある看護を目指して

ICU・CCU / 救急センター  
感染管理特定認定看護師 西脇 直美



2008 年に認定看護師の認定を受け、これまで感染管理認定看護師として活動をしてきました。昨年度、滋賀医科大学看護師特定行為研修センターにて 1 年間の研修期間を経て、看護師特定行為研修（6 区分 10 行為（急性期・周麻酔期クラス））を修了しました。

現在は ICU・CCU / 救急センターで勤務している中で、動脈血液ガス分析関連の呼吸不全などを疑う症例で搬送された患者に対し、医師の診察後、手順書を用いて動脈直接穿刺を行っています。これは、採取した動脈血から、早期に呼吸状態・酸素化の評価ができ、必要な治療を開始する事ができ、この間医師は他の業務を実施する事ができるため、効率よく診療・治療を行う事ができます。

救急センターでの診察後、ICU へ入室となる場合は、患者の状態を経時的に観察するため、橈骨動脈ラインを挿入します。これにより、医師や ICU のスタッフは、血圧などの血行動態の観察や、動脈血液ガス分析を容易に行う事ができます。また、患者にとっても、頻回に直接穿刺を行う必要がなくなるため、採血に伴う苦痛を最小限にする事ができます。このように医師と協働して切れ目なく患者の治療が優先されるように心がけています。

また、救急センターへは様々な感染症の患者が来院されます。飛沫・空気感染の恐れのある患者に対し、患者状態のアセスメントを行い、必要時、隔離を行うなど、周囲の患者やスタッフへ伝播することが無いように、感染対策を行っています。

今後も、感染管理特定認定看護師として、医師のタスク・シェア/シフトを担いながら活動を行っていきたく考えています。

## 第 20 回日本医療マネジメント学会 京滋支部学術集会を開催！

令和 5 年 10 月 28 日に第 20 回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会を開催しました。

今回の学術集会には、345 名もの方にご来場いただき、基調講演や特別講演、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、一般演題発表などに参加いただきました。一般演題は、予想をはるかに上回る 102 題もの発表があり、閉会式では高折学術集会長とともに学術集会のテーマ「We Are One Team!」を全員で唱和し閉幕いたしました。

なお、今学会の抄録集はホームページからダウンロードしていただけます。 学会ホームページ：<https://keiji2023-nagahama.com>



特別講演 宮崎 徹 先生



一般演題

